

教育実践総合センター平成17年度活動概要

1. 構成員

センター長（兼任）

教授 若元澄男

専任教員

教育実践研究開発部門

教授 山下芳樹 助教授 神山貴弥

学校教育相談実践部門

助教授 栗原慎二

客員教員（年度内の4期を分任）

本田千恵・林田正彦・戸野香・斉藤美由紀
（いずれも広島県立教育センター）

事務補佐員 関 智子

講演者：木下晴弘氏（アビリティートレーニング・代表取締役）

第2部 模擬授業

「ココロを動かす授業とは」

授業者：岩佐雅紀氏（岡村ゼミナール（株）・統括部長）

コメンテーター：木下晴弘氏

期日：2005年6月16日

場所：広島大学教育学部 L104 講義室

対象：教職志望の学部生・大学院生

参加者数：60名

《人にやる気をおこさせるための教育者としての基本的な姿勢、具体的な考え方・接し方がわかりやすく示され、参加者の教職意欲を高めるのには有益なセミナーとなった。》

2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

(1) 第7回学習科学広島フォーラム

（広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座との共催）

「子どものための英語教育 - 小学校と中学校をつないで -」

期日：2005年5月28日

場所：広島大学教育学部 L205 講義室

講演者：クリストフ・M・ヤフケ氏（広島大学大学院教育学研究科・客員教授）

田尻悟郎氏（島根県東出雲町立東出雲中学校・教諭）

指定討論者：柳瀬陽介氏（広島大学大学院教育学研究科・助教授）

コーディネーター：樋口 聡氏（広島大学大学院教育学研究科・教授）

対象：教育関係者全般 参加者数：120名

《小学校低学年からの英語活動のあり方や、中学校におけるインタラクティブな英語教育のあり方が実習を交えて示され、今後、必要とされる英語教育の指針が示された。》

(2) 教育実践力開発セミナー

第1部 講演

「魂を揺さぶる本気教育～授業力・生徒指導力を高める4つの秘訣大公開！～」

(3) 教育相談実技研修会

「児童相談所からみた子どもたち - 教師にどうしても知っておいて欲しいこと -」

期日：2005年12月10日

場所：広島大学教育学部 L204 講義室

講師：谷田寿幸氏（広島市児童相談所）

対象：教職志望の学部・院生，現職教員

参加者数：40名

《児童相談所で扱う典型的な事例のケーススタディを行うなど、連携やアセスメントの実践力の形成に有益な研修会となった。》

(4) 第8回学習科学広島フォーラム

（広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座との共催）

「豊かな心を育むための食育について考える」

期日：2005年年12月23日

場所：広島大学教育学部第3・4会議室

話題提供者：ロースウィット・ロート氏（広島大学大学院教育学研究科・客員教授）

富永美穂子氏（九州女子大学家政学部・助教授）

東 左都子氏（安芸高田市立向原小学校・校長）

橋本玲子氏（山本ファミリー農園，ふるさと自然楽校ほしはら山のがっこう）

司会：森 敏昭（広島大学大学院・教授）

対象：一般 参加者数：50名

《食育にかかわる内外の研究者および教育者から多様な提案があり、これからの食育を多角的にとらえていく視座を与えることができた。》

(5) 第1回学校教育支援セミナー（客員教員企画）

「キレイやすい子の理解と対応」

講師：本田恵子氏(早稲田大学教育学部・教授)

期日：2006年2月11日

場所：広島大学教育学部 L204 講義室

対象：現職教職員（小・中・高等学校）、広島大学学生

参加者数：48名

《広汎性発達障害，ADHD 等への理解を深めると共に，生徒が「キレイ」場面のロールプレイを行うなど，実践的な研修会となった。》

3. センター専任教員による学外講演等の活動

生徒指導・教育相談、教材開発、幼小中連携などに関する講演や演習の指導

期間：通年（125回）

対象：主に教員

人数：約6000名

「こころ豊かに健やかに，生きる子どもの育成を目指して」全国養護教員会，8/3，1300名

「ブリーフ・カウンセリングによる問題行動への対応」独立行政法人教員研修センター，8/1，200名

「ブリーフセラピーの理論と実際」山梨県総合教育センター，8/4，160名

「ブリーフ・カウンセリングによる問題行動への対応」熊本県立教育センター，9/9，45名

「ブリーフ・カウンセリングによる問題行動への対応」山口県教育委員会，5/10，130名

「誰もが身につけたい教育相談の基礎理論と方法」北海道立教育研究所，11/14，25名

「生徒の成長を促す生徒指導のあり方」鳥取県立教育センター，6/16，90名

「生徒指導と教育相談の関連と実際」埼玉県教育委員会，12/9，50名

「学校で生かせるブリーフセラピー」福井県教育研究所，11/16，50名

「これからの学校教育相談の在り方」静岡県総合教育センター，11/17，40名

「学校で使えるブリーフセラピーの理論と実際」岡山県教育センター，7/21，90名

「学校教育相談の今，そしてこれから」埼玉県高等学校教育相談研究会，5/13，60名

「学校コンサルテーション」日本学校教育相談学会群馬県支部，8/20-21，35名

「これからのキャリア教育」広島市教育センター，5/12，25名

「これからのキャリア教育」東広島市教育委員会，5/31，50名

「生徒指導でどのような力を育てるか」福山市教育委員会，5/17，10名

「こどもの心をつつめる」子ども教育支援財団，11/20，25名

「関係機関との連携」子ども教育支援財団，11/28，25名

「よりよいコミュニケーションのために」広島大学附属中・高等学校，5/19，50名

「親子間・家族内のコミュニケーション」広島大学附属中・高等学校，10/29，150名

「不登校生徒・不登校気味の生徒に対する支援」東広島市立八本松中学校，6/21，20名

「教育現場でのカウンセリング」東京農業大学第三高等学校，5/24，50名

「ピア・サポートとは何か」広島市立二葉中学校，4/12，30名

「不登校支援ーコミュニケーションの視点から」廿日市市立野坂中学校，11/21，80名

「保健室を訪れる生徒の相談活動について」広島県高等学校教育研究会養護部会，12/6，25名

他 100 件

4. 研究活動

A. センタープロジェクト研究

(1) 学長裁量経費による研究（研究代表者）「現代 GP 「新しい文化的市民力」の育成をメインフレームとした教員養成プロジェクト」導入に向けての事前調査、及び準備研究」

(2) 研究科長裁量経費による研究（研究代表者）「連携の要として機能する「双方向型・多機能ホームページ」の開発 - 教育における情報のネットワーク化の推進のために - 」

(3) 研究科長裁量経費による研究（研究代表者・分担者）「臨床的指導力育成のための初等教育

教員養成カリキュラムの開発に関する研究：広島大学における「特色ある教育実習プログラム」提案を受けて」

- (4) 広島県立教育センターとの共同研究「現職教員の生徒指導・教育相談の力量形成のための研修プログラムに関する研究」
- (5) 広島県立教育センターとの共同研究「不登校の未然防止・早期対応に向けた学校づくりに関する研究」

B. 附属学校・公立学校との共同研究

- (1) 文部科学省指定「人権教育総合推進事業」：広島市立二葉中学校とその学区内4小学校との共同研究「中学校におけるピア・サポートの教育実践的研究」
- (2) 附属東雲中学校との共同研究（研究分担者）「明日を担う生徒を育てる学校教育の創造（6年次）」
- (3) 附属三原学園との共同研究（研究分担者）「21世紀型学力を育成する一貫教育研究プロジェクトの評価と課題について」
- (4) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究代表者・分担者）「特色ある教育実習」の試行的取り組み」
- (5) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「中学校におけるキャリア教育の創造(1) - 総合的な学習の時間におけるキャリア教育プログラムの開発 - 」
- (6) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「幼小中一貫教育における新教育システムの提言～プロジェクト型研究及び教育研究におけるアセスメント部のあり方について～」
- (7) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「児童生徒における情報倫理意識と一般的規範意識との関係」
- (8) 広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「問題解決に生きてはたらく力を育成する理科学習の創造(3) - 小学校理科単元「大地の創造」の開発 - 」

C. その他外部資金導入による研究

- (1) 科研費研究（研究代表者）「我が国の自然科学教育の原点を東奥義塾の教育実践に探る萌芽的研究」

- (2) 研究科長裁量経費による研究（研究分担者）「学習指導の改善充実に関する研究」
- (3) 研究科長裁量経費による研究（研究分担者）「新入生を対象とした教育実習と教職意識との関連に関する研究プロジェクト」
- (4) 独立法人科学技術振興機構委託研究（研究分担者）「物理学の基本的用語の選定 - 物理学、物理教育の立場からの用語の選定 - 」
- (5) 米日財団奨学寄付金研究（研究分担者）「グローバル・パートナーシップを推進するための人材育成およびプログラム開発 - 広島大学グローバル・パートナーシップ・スクール・センター設立に向けて - 」
- (6) 文部科学省平成17年度・大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援）経費による研究（研究分担者）「21世紀型教員養成教育の開発と実践～欧米の先進的教員養成システムに基づく教育プログラムの構築～」

5. 教育・社会貢献事業

- (1) 学校コンサルテーション活動
公立学校の教員および児童・生徒の保護者を対象として、生徒指導・教育相談に関するコンサルテーションを行った。通年で20回、延べ40名を対象として実施した。
- (2) 地域教育実践ボランティアネットワーク事業
本事業は、「教師に必要な幅広い社会的視野と実践的指導力の育成」および「市民としての自觉形成と街づくりへの参画」を目的として、学校や各種施設等からの学生ボランティア派遣の要請にこたえ、希望する学生を募集し、派遣する制度である。本年度は、14件の派遣要請を受け、延べ120名の学生を派遣した。
- (3) 学力向上支援事業（東広島市教育委員会との連携事業）
児童生徒の学力や学習意欲の向上を図ることを目的に、東広島市内の1小学校および3中学校で実施される取り組みに、大学生を放課後学習チューターとして派遣した。派遣した教員志望の学生の教員としての資質向上を図る目的もある。期間は2005年6月～2006年3月までで、42名の学生を派遣した。

(4)フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

本学部では教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員 10 名から成るフレンドシップ事業実行委員会を組織し、その運営にあっている。

活動の趣旨 「教員養成学部の学生が、地域の小学校に在学する児童および住民の方たちと共に自然体験・勤労体験などの直接体験活動を行うことにより、教師として豊かな資質を養うと同時に児童の生きる力を育て、地域の人々と児童、学生の交流を深める」ことを趣旨とし、平成 9 年度より活動を開始して、17 年度は 9 年目である。

活動の形態 17 年度は「地域教育実践・」の授業として通年で開講した。

実施内容 1) 活動は、H17.4 から H18.1 にかけて、月例活動8回、宿泊研修(1泊2日)1回、大学内シンポジウム1回を行った。月例活動の活動時間帯は、午前 10 時から午後 4 時。

2) 参加学生は、受講学生と単位を必要としないボランティア学生を含め約 100 名。児童は東広島市立小学校 20 校から募集した 143 名。地域の協力者は、東広島市下見地区を中心とする 20 名。

3) 児童 9 名と学生 5 名で 1 班とし、16 班を編成し、表現(4 班)、自然(4 班)、サバイバル(4 班)、タイムトラベル(4 班)の 4 グループに分けてグループ活動や、畑での栽培活動や餅つきなどの全体活動を行った。

(5)学外から委嘱された委員等

- ・第 5 回「未来新聞を作ろうコンテスト」審査委員(青森朝日放送主催、文部科学省等後援)
- ・東広島市キャリア・スタート・ウィーク実行委員会委員長
- ・尾三地域キャリア教育推進委員会委員
- ・東広島地域キャリア教育推進委員会委員
- ・東広島市「新学校教育プラン」検討委員会副委員長

6. 研究紀要の刊行

学校教育実践学研究(第12巻)の刊行